

大和田建樹 （建樹） 詩人、歌人、國文學者。安政四年四月、二十九日伊豫國宇和島生れ。明治四十二年七月一日歿（八五七―一九〇〇）。幼名晴太郎、清秀。藩費を経て廣島外國語學校に學ぶ。獨學で國文學を研究。最初の近代文學史を書けず。東京入學古典講習科、東京高等師範學校東京女高師等を教へ、傍ら多くの新體詩、唱歌等を發表。殊に「鐵道唱歌」は一世を風靡した。

著書『新調唱歌詩人の春』（明治二十年十一月文盛堂）、『明治唱歌・第一集』（英和義共著、明治二十二年六月十四日中央堂）、『古今讀本』

（選、一の巻・明治二十二年九月十一日、一の巻・十月十日有正館）、『山のぶら』（内題「山のぶらの記」明治二十二年二月二十一日中央堂）、『謠曲通解・第二卷』（編、明治二十五年二月十五日博文館）、

『高等帝國唱歌』全二冊（上巻・明治二十五年六月二十二日、下巻・七月一日博文館）、『和文學史』（明治二十五年十一月十七日博文館）、博文館版「通俗文學全書」（『修辭學』明治二十六年一月十五日刊、

『新體詩學』二月十五日刊、『應用和文學』二月十五日刊、『狂言評註』四月十五日刊、『應用歌學』五月二十二日刊、『記行文選』六月十五日刊、

『歌曲評註』七月十五日刊、『應用漢文學』八月二十一日刊、

『海壇稿評註』九月二十一日刊、

『日本文人傳』十一月十五日刊、

『明治書翰文』（編、巖谷修書、明治二十六年十一月二十日博文館）、博文館版「國民文庫」（『歌』）

米名家詩集・上巻『繙譯・明治二十七年一月二十七日刊、』『歐米名家



詩集・中卷』編譯。二月二十日刊。『文學遊戲』四月二十九日刊。『英米文人傳』九月二十四日刊。『明治文學史』十月二十六日刊。『幼年と志編』(合著・坂下龜太郎編、明治二十七年二月十七日博文館)。

『明治女子書簡文』(編、小野蒼堂書、明治二十七年二月十一日博文館)、『和文學教科書』『徒然草類選』全二冊(選、再版・明治二十七年十一月

二十日小池繪更刊、後淵閣藏梓)、『山したみづ』(明治二十八年五月五日老鶴園)、『日本大辭典』(編、明治二十九年十月十日博文館)。

『少年と志編』(明治二十年二月十日博文館)、『少年叢書』、『日本小辭典』(編、明治二十年四月十二日博文館)、『聖徳太子』(明治

二十年五月六日博文館)、『日本歴史譚』、『作文寶典』(編、明治二十年八月十五日博文館)、『鐵文雪月花』(明治二十年九月二十八日

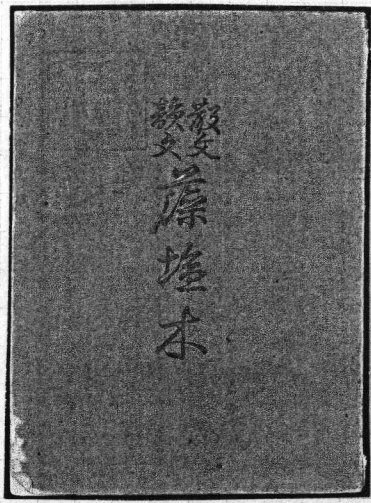
博文館)、『謠曲文粹』(編、明治二十一年一月四日博文館)、『日本大文學史』全五冊(卷之一・明治二十二年四月七日、卷之二・六月

四日、卷之三・八月十一日、卷之四・十一月四日、卷之五・二十二年二月)、『藤田東湖』(明治二十二年七月十日博文館)、『少年讀本』、『新體詩學』(明治二十二年九月二十日博文館)、『鐵

文深山櫻』(明治二十二年十一月二十七日博文館)、『地理鐵道唱歌・第一集』(作歌、上眞行、多梅維作曲、明治

二十二年五月十日大阪・二天佐助刊)、『地理鐵道唱歌・上卷』(作歌、多梅維作曲、明治二十二年七月十日大阪・二天佐助刊)、『鐵文藻蘆木』(明

治二十四年八月一日博文館)、『夕月夜』(編、小澤政胤、飯田翼校、明治二



治二十四年八月一日博文館)、『夕月夜』(編、小澤政胤、飯田翼校、明治二

- 十四年十月二十一日婦女新聞社)、『むすぶ盟一白英同盟の歌』(作歌、田村虎藏作曲、明治二十五年二月、千五百金港堂書籍株式會社)、  
 『漫筆』  
 『旅行志たわらび』(明治二十五年七月十日金港堂書籍株式會社)、  
 『長恨歌(附録漫筆)』(明治二十五年九月十七日東京出版社)、『能  
 の京』(この巻、明治二十六年五月十七日、四の巻、九月四日、六の  
 巻、二十七年一月、二十日博文館)、『征露  
 軍歌旅順陥落』(作歌、明治二十  
 七年七月、二十六日育英舎)、『短文  
 漫筆』  
 『漫筆』  
 『地球堂書店)、『日記文範』(編、明治四十年八月十二日博文館  
 『通俗作文全書』)、『歌又野菊』(明治四十一年四月十五日博文  
 館)、『歌の手引』(明治四十一年十一月十二日博文館『家庭百科全  
 書』)、『蘆船日記一附録ごもり』(編島四郎編、明治四十一年十一  
 月十九日大久保りよう刊)、『大和田津樹歌集』(明治四十四年十一  
 月一日待宵會。再刊、四十五年一月十八日博文館)、『能謠秘訣』(大  
 正二年二月十八日東京堂書房)、『しぐらわらび抄』(昭和四十七年十  
 一月三日愛媛・宇和島市と図書館「宇和島郷土叢書」)等。  
 文獻、中島幸二郎著『歌の旅行案内一鉄道唱歌の作者をめぐる人々』  
 (昭和二十二年四月五日日本交通文化協会)、同『鉄道唱歌物語一  
 』  
 『歌の旅行案内』の生誕と作者をめぐる人間及史』(昭和二十九年五  
 月十五日、再刊、四十年七月十一日交通日本社「交通新書」)、同『汽  
 笛一吉新橋を、決定版・鉄道唱歌物語』(昭和四十二年八月十日悠啓  
 社)等。